

地域力を生かした
子ども向け事業の展開について
(答 申)

平成 28 年 2 月 2 2 日

郡山市立公民館運営審議会

はじめに

平成 26 年 11 月 6 日、郡山市立公民館長各位より公民館運営審議会に対し「地域力を生かした子ども向け事業の展開について」諮問が行われました。

諮問を受けた本審議会では 6 回にわたり公民館の現状を確認しつつ、問題点や公民館事業のあり方について審議を重ねてまいりました。

現在、郡山市では中央公民館、各地区・地域公民館において地域の社会教育団体等へ活動場所を提供しているほか、主催事業として趣味や教養を学ぶ講座や、地域の特性に応じて、地域づくりや子育て支援、青少年の健全育成、団塊世代の地域参画促進などの各種事業を実施し、毎年多くの市民が参加しており、地域の社会教育や文化活動の拠点となっております。

また、東日本大震災の際には、多くの公民館が地域の避難所としての役割を果たし、防災拠点としても市民から大きな期待を受けているところであります。

今後も多種多様化する時代の変化のもとで、公民館が地域住民とともに新しい視点をもって更なる発展を遂げるために、審議結果を答申いたします。

1 現状と課題

今期の諮問事項を審議する中で、先進地への視察や各公民館で実施しております子ども向け事業の現状を体験・調査したところ、郡山市の公民館事業は、地域の各種団体やボランティアの方々が非常に協力的、かつ有効的に講師や運営などに御協力いただいております、どの公民館においても地区・地域の特長などを生かした魅力的な事業が展開されておりました。

主催者側の配慮や工夫等も随所に見られ、参加者の笑顔が絶えず、充実した事業が計画的に実施されていると感じました。

しかしながら、以下のとおり、いくつかの課題が確認できました。

- (1) 学校や地域行事との重複のため、参加したい事業があっても参加できない場合があり、事業の日程や内容を事前に確認のうえ、実施日や事業内容などの調整が必要である。
- (2) 近年の傾向として、クラブや塾、習い事などにより子ども達に時間的余裕がなくなってきたこと、遊びが多様化してきたことなどから、参加者の確保が厳しいとの声が多く聞かれた。
- (3) すばらしい事業を実施しているにも拘らず、一部の参加者や関係者の口コミでしかすばらしさが伝わっていないのが非常に残念である。
- (4) 管轄エリアが広域となる地区公民館においては、会場となる公民館が自宅から遠く、保護者の送迎に頼らざるを得ない状況となっており、子どもが参加したくとも保護者の都合により参加できない場合が多く見られた。

2 提案事項

(1) 地域ネットワークの充実

地区・地域の各種団体や小・中学校等による「地区・地域協議会」などの連絡体制を支援・強化することにより、地域ネットワークをさらに充実させること。また、地域人材の発掘、地域の実情や課題などを的確に把握し、それぞれの地域活動に反映させ、相互発展できるような環境整備を図ること。

これにより、導き出された意見や結果を踏まえ、小・中学校と公民館事業の住み分けを明確化するとともに、地区・地域の住民の趣向や需要に合わせて事業内容の見直しや事業規模を変更するなど、柔軟に対応すること。

(2) 公民館職員の地域コミュニケーション能力の向上

地域コミュニケーション能力の向上のために、公民館職員には、新しいメディアを活用するノウハウと、地域のニーズを的確に捉え、住民と協働で事業を企画する能力が求められている。また、「地区・地域協議会」などの組織を充実させるためには、高度なコミュニケーション能力が必要であることから、各種講習会等に積極的に参加するとともに、職員間の情報の共有・連携を図るた

めの研修会や学習会を通して、自己のスキルアップを図り、意識改革に心がけること。

なお、事業の企画にあっては、従前からの慣例的な事業にとらわれることなく、事業の経費や労力、参加人数の変動等を勘案し、事業の継続・改善・廃止を適宜、判断すること。

(3) 情報の発信

公民館事業の周知を図るためには、PR方法に工夫が必要である。たとえば、誰でも参加できるように事業を公開講座にする、写真や動画などを用いて、メディアを活用した広報活動をする、または、地区・地域の垣根を超えて参加者を募集することにより、公民館相互の情報交換が図られ、新しい事業の発想や、各公民館の枠にとらわれない広域的な事業の展開が期待できる。

また、各公民館で作成しているウェブサイトを統括し、全公民館で実施する事業やイベント等を検索できるように、ウェブサイトの統一化及び情報の共有化を目指すこと。

(4) 時代にあった柔軟な事業展開

人気のある講座や現代的課題をテーマとした事業は、継続して実施するとともに、「市政きらめき出前講座」や「きらめきバンク達人先生」などを有効に活用した講座や、地域の人材を発掘し、コーディネーターとして養成するための事業、さらには、地元企業・NPO法人とのタイアップ事業を実施するなど、地域力を最大限に生かして、柔軟に講座や事業を展開すること。

子ども向け事業については、参加者である子どもが「何をしたいか」、また子どもの保護者が「何をさせたいか」というそれぞれのニーズを十分に念頭におきながら、祖父母なども一緒に楽しめる事業を企画すること。

また、会場となる公民館から自宅が遠い子どもたちのために、近くの分館事業を充実させていくことや、会場への送迎についても実施にあたっての課題を洗い出し、その必要性も含め検討していくこと。

(5) 新たな公民館の在り方について

公民館はこれまで地域の憩いの場、つどいの場、交流の場として地域コミュニケーションの拠点施設としての役割を担っていた。今後は、従来の貸室や事業での利用にとどまることなく、子どもを含めて誰もが気軽に足を運べる「地域の居場所」としての活用が期待されている。

子どもが集まれば保護者も集まる。さらには祖父母も集まる。このような、集まりやすい「開放的な公民館」を目指すためには、公民館職員が地域のコーディネーターとしての役割を十分認識し、受け入れ態勢や施設の環境づくりに心掛けることが必要不可欠である。

本年度には、中央公民館が充実した施設機能を備えた開放的な公民館として再オープンしたところであり、他の公民館でもW i - F i 環境サービスの導入が順次開始されている。

今後、公民館が子どもたちを含め、地域住民の居場所として、気軽に御活用いただくためには、このような新たな環境や設備を十分活用し、空室の自由利用や学習室として開放を実施するほか、地域資源を生かした幅広い発想で柔軟に事業を展開していくことが、求められている。

3 結びに

本答申が公民館の課題と現状を鮮明にし、諮問された「地域力を生かした子ども向け事業の展開について」の方向性を示すものとなれば幸いです。

平成28年2月22日

平成 26 年 6 月 1 日から平成 28 年 5 月 31 日

郡山市立公民館運営審議会

郡山市運営審議会委員（22名）

委員長：品竹悦子		副委員長：倉元久美子			
峯 淳子	伊藤 晶子	島田 成夫	吉田 元治	猪爪 富美枝	
伊東 吉子	長澤 純子	浅野 雅子	遠藤 洋子	桑名 佐奈恵	
鈴木 君雄	矢吹 広江	橋本 朝子	根本 京子	黒澤 俊廣	
宗像 真紀子	角 田 恵	長尾 由芳	小林 冬美	中村 良夫	

郡山市立運営審議会 諮問検討経過

回	日 時	検討事項等	開催場所等
1	平成 26 年 6 月 30 日	委嘱状交付 運営審議会スケジュール説明 公民館の概要及び事業説明	公会堂
2	平成 26 年 11 月 6 日	諮問事項についての審議 公民館訪問の実施説明	公会堂
-	各自の日程調整	各委員で公民館訪問 実際の子ども向け事業を見学	各公民館
3	平成 27 年 2 月 20 日	諮問事項についての審議 事業見学の結果報告	公会堂
4	平成 27 年 6 月 29 日	平成 26 年度 公民館事業報告 平成 27 年度 公民館事業予定 先進地視察研修についての協議	中央公民館
-	平成 27 年 8 月 24 日	先進地視察研修 子ども向け事業について 特色ある取り組みについて	いわき市立 中央公民館
5	平成 27 年 11 月 27 日	諮問事項についての審議 答申（案）の作成	中央公民館
6	平成 28 年 2 月 17 日	諮問事項についての審議	中央公民館
7	平成 28 年 2 月 22 日	答申確定・公民館長へ答申	各公民館
8	平成 28 年 2 月吉日	教育長へ答申を報告	教育委員会